

**SUITA ESAKA ROTARY CLUB**
CLUB WEEKLY BULLETIN創立年月日/1990.2.27
事務所/〒564-0063 吹田市江坂町1丁目23番101号(大同生命江坂ビル12F)
TEL06(6821)0222 FAX06(6821)0206 E-mail:esaka-rc@lake.ocn.ne.jp例会場/新大阪江坂 東急イン・3F 〒564-0051 吹田市豊津町9番6号 TEL06(6338)0109 例会日/毎週火曜日 12:30~13:30
会長:西山俊明 幹事:新井性哲 会報委員長:延秀恵

2014年6月24日 第1138回例会(第1137号)

🌀 本日の例会 🌀

今週の歌 「奉仕の理想」

卓話 「次年度方針」

栢本 淑子 クラブ運営委員長

成松 重人 奉仕活動委員長

田中 茂晴 広報委員長

🌀 次回例会のお知らせ(7月1日) 🌀

卓話 「新年度挨拶」

金馬 隆仁 会長

田中 弘 幹事

前回〔6月17日〕例会記録

来客

寺岡 龍彦 君(大阪北梅田)

会長の時間 西山 会長

富岡製糸場が世界文化遺産に

ロータリーの友の今月号に、4月26日に「富岡製糸場と絹産業遺産群」がユネスコの世界文化遺産になるのが確定的になり、富岡中央RCの今井清二郎氏等の活動が記載されていました。

富岡製糸場の歴史は、主に次のよう示されています。安政6年(1859年)の開国から10年間、日本の一番の輸出品は生糸であった。もっと質の良いものを、もっと大量に生産できる体制を作ろうと策したのが明治5年です。「殖産興業」は富岡製糸場から始まったといえるとしています。新工場は長さ140メートル、幅12メートル、工女300人用の操糸機械が据えられて、当時世最大規模だった。今井清二郎氏は54歳、平成7年(1995年)の時、富岡市の市長にな

出席報告 赤尾 委員

【6月17日】

在籍会員 33名(内出席規定適用免除者 9名)

出席会員 27名(内出席規定適用免除者 6名)

ホームクラブ出席率 90.00%

5月27日のMUを含む出席率 100%

り、所有者の片倉工業の本社を訪ね、今後どうするのか尋ねた。片倉工業は工場を閉鎖して8年になり、富岡製糸場を売らない、貸さない、壊さないという三原則のもと、保存し続けてくれていました。一銭の利益も生まない工場を維持管理するために、固定資産税も含めて年間7,000万円もの支出をしていた。今井さんは平成18年(2006年)に市長を辞めた後、富岡中央RCで「赤煉瓦物語」の紙芝居を作成し、市内の各地で200回も講演して回ったそうです。片倉工業が富岡市へ工場施設を寄付するまでの経過をつづった紙芝居もした。2003年の夏、当時の群馬県知事が「富岡製糸場を世界遺産に」と言い出した。それまでは、観光資源にしたいとは思っていたが、世界遺産なんて考えたこともなく、驚いたといっている。工場閉鎖から18年後の平成17(2005)年、片倉工業が土地を市に売却し、建物などの重要文化財は市に寄付してくれたので、その年から一般公開を始めたという。片倉工業が、工場閉鎖後17年間も多額の維持費を負担しながら保存してきたのは、富岡の

関西大学RAC例会出席担当

6月23日(月)

出席:橋本、大井、西村、田畑、飛田、
吉野各会員会場:関西大学千里山キャンパス
中央体育館 図書資料室

時間:18:50~19:50

人々が、明治初めの殖産興業が富岡製糸場から始まったことに誇りを持ち、養蚕事業の貴重な史跡である富岡製糸場を心のよりどころにしているからと思います。

幹事報告

田中(弘) 次年度幹事

新会員被推薦者の森優様に対する異議受付通知はございませんでした。

なお、入会式は、杉本英一郎新会員・森優新会員・長谷川伸名誉会員の3名同時に、7月1日に予定しております。

ニコニコ箱

堀田会員 皆様方には色々とお心遣いいただきまして、ありがとうございます。

西山会員 本年度1年間お世話になりました。本日の卓話よろしくお祈いします。

大井会員 ニコニコ、ノルマ達成です。

吉野会員 来週お休みさせていただきます。

次年度も宜しくお祈いします。

本日分 39,000円 累計 1,102,000円

卓話

「今年度事業報告」 西山俊明会長

寺井会長の後任として当クラブの第24代の会長をお受けして、どうなるのか不安を抱きながらスタートを切りました。毎週毎週が大変でしたが、何とかゴールを迎えることができそうです。これも、ひとえに理事・役員の皆様、会員の皆様のご協力のお蔭です。改めて感謝申し上げます。また、新井幹事には、私の能力不足を助けて戴き、御礼を申し上げます。

今年度RI会長のロンD・バートン氏は、今年度のRIのテーマは「ロータリーを実践し、みんなに豊かな人生を」と発表されました。そして、ロータリーの中核的価値観は、奉仕、親睦、多様性、高潔性、リーダーシップです。これらの価値観を地域社会に広めようと努力していますと述べて、地域社会との交流を積極的に進めることを求めています。更に、2660地区の福家宏ガバナーから「感動の体験を!! 人々にも、自身にも」Participate!! ~参加し、敢行しよう~と発表されました。私は、ロータリーライフを支える2本の柱である親睦と奉仕に積極的に取り組んで行くことにしました。そして、RIのテーマ及び地区方針を踏まえて、今年度の吹田江坂RCの重点方針を次の6項目としました。会員の親睦を深める。会員維持と増強に努める。FVP(未

来の夢計画)の計画を策定する。岩手の学びの希望基金に寄付をすること。寄付目標として、ロータリー財団へ1人当たり150ドル。ポリオプラスへ1人当たり50ドル。米山記念奨学会へ1人当たり3万円を計画しました。

これらについて、実施状況を検証してみます。会員相互の親睦を深めるについて。恒例ではあります。親睦活動委員長の北村雅計会員のご尽力により、夏の家族会を新大阪江坂東急インで8月24日に、会員及び家族さらに関大RAC等を含めて総勢61名の参加で盛大に行われました。アトラクションとして風船、皿回し及びジャグリング等、関大RACの皆さんによるピンクレディーの踊り等が披露されました。クリスマス家族会は、12月24日に帝国ホテルで、会員及び家族、関大RAC等を含めて総勢80名で盛大に行われました。特にESAKAヴィーナス8という即席編成による踊りにたいへん盛り上がりしました。今年度も情報集会在、水谷善博会員及び北村雅計会員のご尽力で3回実施されました。非常に強く印象に残っているのは、3回目として4月8日に実施された情報集会でした。屋形船で花見をして、川面から岸の夜桜を見るのも粋なものでした。参加者は定員の35名でしたが、皆さん大変盛り上がりしました。親睦が深まったものと感謝申し上げます。また、西本健二会員のお世話により、前年度途中から始まりましたハイキング同好会も、今年度3回実施され、それぞれ健脚を発揮され、楽しい一日を過ごしました。私は、信貴山と愛宕山の2回参加しました。いずれも下山後に「反省会」と称してする飲食時間が楽しいものでした。親睦に大きく貢献しています。会員維持と増強について。会員数は、前期までの3年間でも、合計8人の会員が減りました。クラブの存亡にかかるものと、会員増強委員会の北山陽一会員の指導のもと、増強委員会を開催し、ターゲットして青年会議所のOB及び商工会議所の会員のうちに知り合いを調べ、誘いの話を持っていく会員も決定して、遂次実施していくことを決めました。そんな効果もあって、次年度に入会することが2名決定しました。次年度には更に勧誘の効果が出てくるものと思います。FVP(未来の夢計画)の計画について。今年度は、どのようなテーマにするか、内容、見積金額等を決定して地区に申請することを決めました。テーマ及び内容等について、社会・青少年奉仕委員長の庄瀬寛会員のご尽力により、「高齢者の健康・生活相談会」として、高齢者が遭遇する様々な問題や悩みを持っている相談者に対して、医療・介護その他の専門家が適切なアドバ

イスをするものです。東日本震災復興支援に関連して岩手の学び希望基金への寄付、災害復興のための寄付等については、それぞれ実施されました。

寄付目標として、ロータリー財団への寄付、ポリオプラスへの寄付及び米山記念奨学会について、目標通り達成できました。会員の皆様には御礼申し上げます。地域の安全、防犯、福祉などの様々な活動している方々に卓話をして頂くこと。これに関しては、プログラム委員長の橋本豊会員のご尽力により、当初の予定通りに実施することが出来ました。特に印象に残っているのは、9月3日の吹田市役所高齢福祉課から卓話を戴いたものです。高齢者に対する介護の実態のお話しの中で、^{にんげん}認認介護の大変さ、高齢者虐待の実態などです。高齢者を社会が支える必要性を再確認しました。その他、吹田市危機管理室から頂いた卓話で、南海トラフ大地震が、今後30年間にM8.5前後の地震が60%から70%の割合で起きるといふものです。食料や物資の備蓄をは

じめ、日ごろから地域との付き合いが必要と思いました。

クラブの財政問題の改善策について。この年度で削減方法を決定しなければ、その効果が次々年度になり、資金ショート危険性が出てくると考えました。今年度の理事会で数回にわたり検討し、また、会員皆様の考えの一部を知るためにアンケートを取らせていただきました。支出削減方法として、最終的に決めましたのは、週報を自クラブで作成すること。概況書の作成を自クラブで作成すること。事務局の給与の削減。関大RACへの支援削減。あと、新入会員の増加2名で会費の増加。以上の合計でほぼ200万円の資金増加を見積もっています。会員の皆様のご協力が不可欠です。どうぞよろしくお願い致します。

今年度一年間、至らない点が多々あったと思います。会員皆様のご協力により、何とか全うすることが出来ました。有難うございました。

台北龍門RC授証14周年式典参加報告

SAA 田中 弘委員長

今年も友好クラブであります台北龍門RCのお招きにより、当クラブ会員9名及び夫人1名合計10名で式典に参加いたしました。

5月30日、中華航空にて台北に到着、台北龍門RCの皆様のお迎えを受け、新店（牛丼が名物）で昼食のおもてなしを受け、温泉地で有名な「烏来（うらい）」へ台北龍門RCの皆様とまさに裸のお付き合いとなりました。

その後、閑静なお庭がある料亭でウエルカムパーティー、タイ国パトンワンRC、韓国新廣州RCも加わり国際色豊かで大いに盛り上がりました。

翌日、式典に参加、当クラブも西山会長が祝辞を述べ、記念品に富士山の掛軸を贈呈しました。

次年度会長のBUS氏が、ファッションショーのランウェイからモデルのマシガン、サングラスに皮のコートをまとい、キルビルのテーマ曲（布袋寅泰のヒット曲）にのって登場した時は圧巻でした。その後、台北龍門RCのメンバーが経営されているワインバーに招待を受け、年代物の色々なワインを頂きました。

翌日は帰国の日でありましたが、午前中西本会員に引率され、地下鉄に乗り市場、平和公園、西門（原宿、渋谷、江坂？のような若者の人気スポットとか）を回り、短い時間ではありますが、台北を満喫できました。

夕方17時25分中華航空158便にて帰国の途につきましたが、台北龍門RCの多くのメンバーが見送りに来ていただき、今後より親密さを増した新たな段階に進んでいくことを予感しました。

